



皆さん、これまでの記事でオーストラリアについて少し分かるようになってきたのではないのでしょうか。

今回は気分転換として、私の両親の出身地、マレーシアについて書きたいと思います。一がしかし、子どものころに親せきを訪ねて3回しか行ったことがないため、実は私のマレーシアに関する知識は割と浅いんです。先日友達にマレーシアの観光のお勧めを聞かれたとき、何も思いつかなかつたぐらいです。それでも、子どもの私がマレーシアを訪ねたときのエピソードを通して学んだことがあります。その中の二つを皆さんに紹介したいと思います。



▲マレーシアの国旗

今日から使える

ひとこと英会話

Lesson 6

あまり使えないが、とにかく
カッコいい慣用句



"Close, but no cigar"

読み方 「クローズ、バット ノー シガー」
意味 「惜しい」

19世紀のアメリカのカーニバルでダーツなどのゲームに勝ったときの賞品がほとんど葉巻だったことに由来します。

注意：少しカッコつけている感じがおり、使い方が難しいです。勇気のある人にお勧めします。

子どもが見たマレーシア

天井にヤモリ

家族とのマレーシアへの旅行ではいつもホテルに泊まらず、親せきの家を次から次へとまわっていました。そのため、私のマレーシアでの思い出は、ほとんど親せきの家のことです。ココナツの木でサルが遊んでいた母方の祖父母の家、タバコの煙がもくもくと部屋の中で雲のようになっていたヘビースモーカーの父方の祖父母の家、玄関への廊下をいつも通してくれない怖い愛犬がいたおばさんのアパート。家ごとに全く違う特徴がありました。



▲天井を走るヤモリ

一つだけ一緒だったのは、天井を走るヤモリでした。普段壁や天井にくっついているヤモリは、退屈だからなのか、たまに落ちてくることがあります。もちろん、下に誰かがいるにも関わらず、おばさんの頭にヤモリが落ちたことを目撃した私は、常に警戒して、天井から目を離すことはありませんでした。

地獄のアイスクリーム

マレーシアは常に蒸し暑いため、体を冷やす方法をいつも探していました。その中で一番の方法は、アイスクリームを食べることでした。

家族でコックをしているおじさんのところに泊まっていたある日、おじさんが私に「新しいアイスクリームを作ったよ。食べてみて」と、私の両親を連れてにやにやしながら言いました。明らかに不審な状況でした。しかし、特に暑い日だったし、アイスも白くておいしそうだったので、一口食べてみました。

間違いでした。両親とおじさんが大きく笑い始めたところでアイスをおぼろげに吐いてしまいました。

おじさんが作ったのはドリアンのアイスでした。ドリアンはマレーシアの名物のフルーツで、においがとても強いです。私の両親とおじさんのように好きな人は結構いますが、嫌いな人も少なくありません。後者の私は普段、においでドリアンを避けられましたが、アイスにすることでにおいを抑えたおじさんが賢すぎました。



▲私が嫌いなドリアン

マレーシアを訪れたときの2つのポイント

皆さん、マレーシアを訪ねることになったら、次のポイントを忘れないようにしてください。天井をよく見張ること、そしておじさんが新しいアイスを作ったと言ったら絶対にそのアイスを食べないこと！